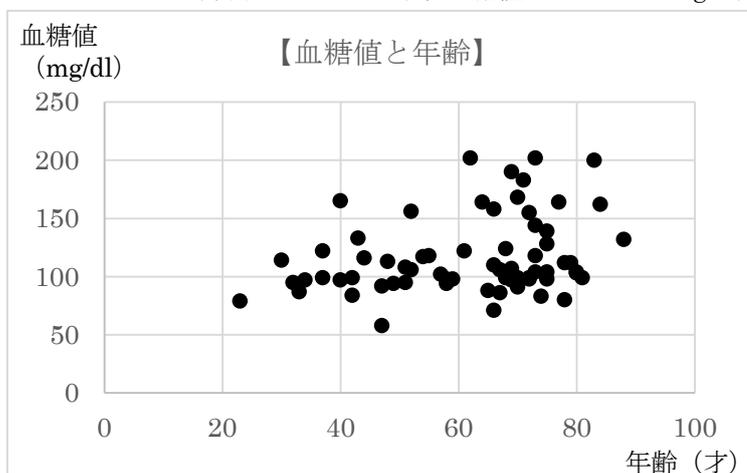


第1日目 測定結果

(1) 測定結果 (結果記入表より)

① 血糖値と年齢 (N=67)

(年齢 61.4 ± 15.5 歳、血糖値 117.0 ± 32.7 mg/dl)



(図1)

② 年齢と血糖値とペリオスクリーン※ (N=36)

(年齢 60.0 ± 15.0 歳、血糖値 109.1 ± 26.3 mg/dl)

	64歳以下	65歳以上	随時血糖 140mg/dl以下	随時血糖 141mg/dl以上	計
+	16	15	26	5	31
-	4	1	5	0	5

※ ペリオスクリーンとは、唾液の潜血反応を見る検査です。通常、唾液中に血液が含まれることはありません。歯周病等で口腔内に出血があると、判定結果が「陽性(+)」と出ます。このため、判定結果が「陽性(+)」の場合、歯周病などの発症が疑われます。

(2) 考察

HbA1cを測定した人は、32人(結果が判明しているのは22人)おり、そのうちHbA1c 6.2%以上の人は7人でした(前回は29人中5人)。血糖値を測定した人は、186人おり、随時血糖で250mg/dl以上の人はおらず、200~249mg/dlの人が5人いました。

今年度は、試行的に複写式の結果記入表を作成し、結果の回収を行っています。378枚配布して、回収できたのが97枚(回収率24.9%)でした。今回は受付を設けず、各コーナーで配布と回収を行いました。回収については任意としたためか回収率が低かったことが課題としてあげられています。

回収した結果から、血糖値と年齢の相関を見ましたが、強い相関はありませんでした(図1)。年齢と血糖値とペリオスクリーンの結果を見たところ、年齢に関係なく歯周病の発症が疑われる人が多かったことが特徴としてあげられます。また、随時血糖が141mg/dl以上の人は5人全員が歯周病の発症が疑われています。このことから、血糖値が高い人ほど歯周病の発症が疑われることがわかります。